

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年3月28日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 與猶菜穂（気象予報士）		
検証テーマ：オープニング、河井案里議員の資金問題、自衛隊の災害派遣 【特集】公文書改ざんで自殺～職員の花は 【特集】会見生中継～感染爆発の危機に首相は		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都厳戒”外出自粛”の週末始まる</li> <li>・オープニング</li> <li>・東京の感染者が一日で最多 63 人</li> <li>・アメリカで感染者が 10 万人に</li> <li>・イタリアの死者が 1 万人に迫る</li> <li>・河井案里議員の資金問題</li> <li>・自衛隊の災害派遣</li> <li>・国立がん研究センターで 2 人感染</li> <li>・TDL など再開は 4 月 20 日以降</li> <li>・東京江戸川区で家主の息子を刺し殺人未遂で逮捕</li> <li>・関東平野部で大雪のおそれ</li> <li>・【特集】公文書改ざんで自殺～職員の花は</li> <li>・【特集】会見生中継～感染爆発の危機に首相は</li> <li>・新型コロナ～日本の置かれた状況</li> <li>・スポーツ報道</li> <li>・気象情報</li> </ul>		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし                      番組の冒頭で金平キャスターが「オリンピックはなぜ一年延期なのでしょう、それが決まるとなぜ感染者の数が一気に日本では増えたのでしょうか、森友事件に絡んで自殺者が遺書で新事実を書き残していたのに、なぜ、再調査しないのでしょうか、このあと午後 6 時から安倍首相の記者会見です、後ほど中継でお伝えします。」とコメントしていた、このシーンに当てられた時間は 23 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・河井案里議員の資金問題：結論→特に問題なし                      膳場「次のニュースです、河井案里参議院議員の去年の選挙を巡って検察が複数の地元議員の任意聴取を始めたことが関係者への取材でわかりました。」                      ナレ「河井議員の選挙ではこれまでの JNN の取材で複数の広島県議が参院選を前に案里氏の陣営が現金を持参したと証言しています。関係者によりますと、検察は県議や広島市議から任意で事情を聞いていて、ある県議は取材に対してカネを受け取ったか聞かれた、と話しました。検察は複数の県議から携帯電話の提出を求めるなどして案里氏の陣営の資金の流れについて実態解明を勧めているものと見られます。河井案里氏の選挙を巡っては</li> </ul>		

ウグイス嬢と呼ばれるスタッフに法定の上限を超える報酬を支払ったとして秘書ら二人が起訴されています。」  
このトピックに当てられた時間は 60 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・自衛隊の災害派遣：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「自衛隊が再び災害派遣されました。」とのコメントを受けて以下に朱記した VTR が取り上げられた。

"河野太郎（防衛相）「感染症をここで拡大をしっかりと食い止められるかどうか、今その瀬戸際にあります。」  
ナレ「新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため水際対策を強化する必要があるとして、防衛相は今朝、自衛隊に災害派遣を命令しました。帰国者への PCR 検査を実施するため、陸上自衛隊の医官や看護官およそ 10 人が成田空港に派遣されたほか、待機施設への輸送業務や生活支援のため、成田空港と羽田空港に派遣されています。」

このトピックに当てられた時間は 39 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】公文書改ざんで自殺～職員の妻は：結論→問題あり

膳場キャスターの「特集です、森友問題の公文書改ざんで自殺した近畿財務局職員の遺書ともいべきメモの内容が先週明らかになりました。再調査はしないという政府に職員の遺族は今何を思うのでしょうか。」とのコメントを受けて以下に朱記した VTR が取り上げられた。

"ナレ「国有地が八億円以上も値引きされた森友学園問題、公文書の改ざんを強要され自殺した職員の手記が明らかに。」

手記「元は全て佐川理財局長の指示です。」

ナレ「彼が使っていたパソコン。」

金平茂紀「パソコンが赤木さんが受かっていたパソコンそのもの。」

生越照幸「そうですね。」

ナレ「そして妻が番組の当てたメッセージとは。」 "

CM をはさみ以下に朱記した VTR が取り上げられた。

"ナレ「3 年前の 2 月、国会では森友問題への追及が強まっていた。」

安倍総理「私や妻が関係していたということになれば、これはもうまさに、これはもう私は総理大臣も、それはまあ間違いなく総理大臣も国会議員もやめることははっきりと申し上げておきたい、全く関係ないことは申し上げておきたいと思いますし……」

佐川宣寿(財務省理財局長、当時)「近畿財務局と森友学園の交渉記録というものはございませんでした。売買契約締結をもって事案終了しているということなので、当日その人かどうかは別にしても、速やかに事案終了で廃棄しているとのことだと思いますので、記録は残ってございません。」 "

"ナレ「先週、週刊誌が報じたある人物の手記。国会でのこのやり取りの直後から公文書の改ざん作業を担わされ、一年後に自殺した近畿財務局職員、赤木俊夫さんのものだ。」

手記「元は全て佐川理財局長の指示です、学園に厚遇したと取られる疑いの箇所はすべて修正するよう指示があったと聞きました。」

ナレ「手記を公表した日、赤木さんの妻は国と財務局の理財局長だった佐川宣寿氏に対しておよそ 1 億一例ゼロゼロ万円の損害賠償を求め、大阪地裁に提訴した。報道特集の取材に赤城さんの妻は丁寧に応じてくれた。赤木さんは元国鉄職員で分割民営化の際に地方の財務局職員に転職。働きながら立命館大学の二部に通って大学を卒業した。赤木さんの部屋の映像。生前のまままだという。棚にぎっしり並べられた本。整理整頓が行き届いている

ことから几帳面さがわかる。書道の道具も、お金をかけて買い揃えたという。建築家の安藤忠雄やミュージシャンの坂本龍一の大ファンだった。近畿財務時報という部内誌には。」

近畿財務時報「教授の音楽はゴダールの絵画的な映画のようにまさに『音楽図鑑』である。」

ナレ「多趣味でよく笑ったという赤木さんの表情は改ざん作業を命じられてから一変したという。赤木さんの死後、自宅のパソコンに残されていた手記を妻が見つけた。妻の代理人である生越弁護士事務所で特別に見せてもらうことができた。」

金平茂紀「このパソコンが赤木さんが使っていたパソコンそのものですね。」

生越照幸弁護士(妻の代理人)「そうですね、はい。」

金平茂紀「ああ、ちょっとあけていただけますか、これは奥様の了承を得ています。」

生越照幸「はい。」

"ナレ「パソコン画面を開いて文書のアイコンをクリックする。」

生越照幸「見るのは私も今日が初めてです。」

金平茂紀「ああ、そうですか。」

ナレ「手記と題された文書の1ページ目に赤木さんがこれを書いた理由が記されている。」

手記「本件事案は今も事案を長期化、複雑化させているのは財務省が国会等で真実に反する虚偽の答弁を貫いていることが最大の原因であります、この手記は本件事案に関する真実を書き記しておく必要があると考え、作成したものです。」

金平茂紀「なんか僕らの仕事もそうですけれどもパソコンってなんか自分の分身みたいになるんですね。」

生越照幸「まあそうですねえ。本当にね、これで書かれたんだと思うとちょっとやっぱり。」

ナレ「几帳面に記録を残した赤木さん、検察の操作が本格化した2018年2月、赤木さんは多聴の悪化についても別の文書で記していた。その文書を見せてもらい、句読点や改行も含め、精確に書き起こした。」

文書「体・全身の発疹(強い痛み)顔部も、全身の倦怠感、大幅に判断力が低下、脳・頭痛(12月、これまで経験したことがないほどの激痛)。」

ナレ「自分の気持ちについても吐露している。」

文書「外見上は顔面や手の荒れ程度しか見えないので、仮出勤したくない理由を並べていると誤解されることが非常の苦しく辛い。自然な風景、芸術作品などを見ても、どの一点も安らぎと美を感じなくなった。まさに生き地獄。家内にそのまま気持ちをぶつけて、彼女の心身を壊している自分は、最低の生き物。人間失格。」

"ナレ「赤木さんが遺体で発見されたのはこの文書を書いた二週間後だった。」

生越照幸「カルテとかノートとか、あと、遺書の話の合わせると本当になんですかね、そのやりきれないというか、と感じましたね。」

ナレ「大阪地検特捜部は赤木さんの死の2ヶ月後、告発された財務省幹部ら38人全員を不起訴処分とした。」

金平茂紀「弁護士としてなにか考えることとかありますか。」

生越照幸「まあ安倍首相の国会答弁から周りの人がこう、まあ忖度というかですね、行政が上から下まで動いていって、で最終的に下の方がすごいその、最後、遺書とかにもありましたけれど、最後は下っ端が切られるみたいな話なんだと思うんですね。まさにこの赤木さんの事件でちゃんとやらなければ、結局今起こっている話も、まあ後で検証がきつとできないんじゃないか、それが民主国家なのか、と大きい話をするとですね、そういうふうに思いますね。」

"ナレ「二年越しで赤木さんの妻の取材を続け、週刊誌に手記を公開した相澤冬樹記者。赤木さんが大切に保管していた大蔵省と記された鉛筆を妻から託されたという。」

相澤冬樹(大阪日日新聞記者)「文面全体を通して感じるのはこれを書いた本人、赤木俊夫さんが、これは例えばその、家族に向けたね、親しい人に向けた遺書、だけではなくて、あくまで、当然これは大勢の人に知ってほしい、世の中の人に知ってほしい、という遺志でこれ書き残しているというのがわかりますので、一体何を隠そうとして、改ざんをし、改ざんをさせられた赤木俊夫さんはなくなったのかと、これを知りたいんです、これは遺族としては当然の思いで。」

"ナレ「相澤記者によると、赤木さんが改ざんの指示について詳細を記したもう一つの文書が近畿財務局のパソコンに存在しているという、赤木さんの妻が一周忌の直後、自宅を訪れた元上司から聞かされた話だという。」

相澤冬樹「どこからの指示でどの文書のどの部分をこんなふう書き換えたって、ぱっと見たら全部わかるって改ざんのすべてが書かれている資料、でこれをね、出してください、全部見てもらおう、っていて検察庁に出したっていうのだから、当然、検察庁の人も見ているし、財務省にも絶対原本がある。」

ナレ「財務省は2年前の6月、省内の調査結果を公表し、佐川白20人を懲戒や嚴重注意などで処分した、だが、この時処分された幹部全員が、その後、税関トップや駐英公使など栄転している。政府は今の所、この問題について再調査をしないとしている。赤木さんの妻は第三者委員会による再調査を求めて、インターネットで署名活動を始めた。」

相澤冬樹「今回、遺族である赤木俊夫さんの妻が真相解明を求めていますけれども、国民みんな同じだと思いますよ。こういうことを有耶無耶にしないでちゃんと明らかにしてほしい、そこはね、与野党関係ない、もしくは政権是か非かも関係ない、これはもう原点は国有地の8億円の値引きが是か非かであって、国有地八億円の値引きと公文書改ざんの真相をきちんと解明するっていうのは与野党を超えて共通の政治家台として取り組んで明らかにして、明らかになったその内容で初めてね、是か非かの話にいくと思う。」

"ナレ「今週、野党四党合同の森友問題再検証チームによる財務省関係者へのヒアリングが行われた。」

福島瑞穂(社民党党首)「押収された書類の立件記録が大阪地検から戻ってきているのですから、それを出すように協力してくださいよ、ここは国会ですよ、国会に協力してくださいよ。なぜ、出せない、なぜ出せない、操作は終わっているんですよ、刑事訴追の恐れがあるという文句は使えないですよ、佐川さんも含めて、協力してくださいよ。」

"ナレ「これを見たという赤木さんの妻は一昨日、報道特集にメッセージを寄せてくれた。」

赤木さんの妻「悪しき風土を作っているのは麻生大臣です、3月24日に行われた野党のヒアリングを拝見しました。安倍首相や麻生大臣が調査をしないと発言されたために、財務省の人たちは野党の人たちに追求され、苦しい汗をかいておられました。しわ寄せは夫のような立場の人のところに来ると思います、本当のことを言えず隠し通し表に出てはいけないのは捨てる。書き換えをする。このような悪い風土をなくすためにも麻生大臣が調査を勧めてください、財務省の潔白を証明するためにも。」

VTRを受けてスタジオでは膳場キャスターが「公文書改ざん問題取材しました、金平キャスターには後ほど中継で聞きます。」とコメントし、他のトピックを取り上げた後に以下に朱記したようなやり取りが中継との間で繰り広げられた。

膳場貴子「では、この会見取材していました金平キャスターに聞きます。金平さん。」

金平茂紀「ええ、今、たった今出てきたばかりなんですが、まだ会見は続いています、幹事社の方からですね森友事件に絡んだ自殺者の文書問題について質問が出たんですけれども、たいへん痛ましく、ご遺族の皆さんにお見舞い申し上げる、行政府の長として改ざんはあってはならない、というようなこれまでの国会答弁で言っていたようなことを繰り返して財務省も麻生大臣のもとで捜査当局による調査も終わっているということで、まあ要するに再調査はしないというこれまでの姿勢を崩していないということだったんですけれども、まあ私は

こういうことをすぐに出てきていうのはですね、テレビをご覧の方々の中にはそのコロナウィルス拡大の折にですね昔のことを蒸し返すようなことをするなというようなことを考えておられる方がいたとしたらですね、私はそれは大間違いだというふうに思いますね、こういうあのかつてないような経済対策をコロナ対策を打ち出す時に国のリーダーをですね、国民が信じられるかという、まあ信用と信頼の問題というのは非常に大事な問題だと思います、そういう意味からするとですね、再調査を行わないというような姿勢については信頼性との関係でどうなのかということをお肝に命じるべきだと思います。」

"日下部正樹「金平さん、まあ自殺したですね、赤木さんの奥様や関係者を通じてですね、何を感じますか。」

金平茂紀「これはですね、死者が残していったものというのは人間の尊厳に関わるような話ですね、そういう意味で言えばですね、公務員としての良心があるのであれば、財務省、あるいは警察庁、法務省も再調査をするべきだと思います。何よりも夫の遺書とですね、それからメモの公表、さらには真相の解明を求めてですね、提訴に踏み切った赤木さんの奥様ですね勇気に対してですね敬意を表したいというふうにも実際に取材をしてみてもですね、つくづく思いました。これからもこの取材をきちんと続けていきたいなというふうに考えております。」

膳場貴子「はい、金平さんでした。」

この特集に当てられた時間は 1000 秒だった。

特集では終始、安倍総理の発言をきっかけに改ざんが進められたというストーリーで取り上げられていた。確かに安倍総理の発言が野党の攻撃を激化させたという面は否めないかもしれないが、それを受けて財務省が「安倍総理を守るため」に改ざんを行ったと言い切れるものではないだろう。

第一、財務省側からすると改ざんまでして安倍政権を守る義理や理由というのがあるのだろうか。改ざんを行うにしてももっと別な理由、例えば地方の出先機関のやったことを本省理財局では十分に把握できておらず、野党の質問を避けるために強気の答弁に徹したなど、も十分に考えられるだろう。そうした中で、「安倍総理を守るため」というストーリーありきでこの問題を報じる姿勢については放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に照らして問題のある報道姿勢と言えるだろう。

・【特集】 会見生中継～感染爆発の危機に首相は：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「さて、安倍総理の記者会見が先程始まりました。来年度予算の成立を受けてのものなんですけれども、これまでにいくつかの国で医療崩壊が起きていること最大限の警戒をお願いするという、経路がわからないケースが都市部であるということ。このままでは爆発的な感染の拡大もありうるということも話しています、それでは安倍総理の会見、中継です。」とのコメントを受けて、総理の会見の生中継が以下に朱記したように取り上げられていた。

安倍総理「いわゆる 3つの条件をできるだけ避ける行動を改めてお願いいたします。第一に、換気の悪い密閉空間、第二に人が密集している場所、そして第三に近距離での密接な会話、密閉、密集、密接。この 3つの密を避ける行動をお願いします。新学期からの学校再開にあたり、今週、文部科学省がガイドラインをお示ししました。教室の窓を開けて、換気を徹底するなど、3つの条件を回避する対策をそれぞれの教育現場で徹底的に講じていただくことで、子どもたちの感染防止に万全を期す考えです。再開にあたっては来週にももう一度、専門家会合を開き、専門的な見地からご意見を伺う考えです。専門家の皆さんが瀬戸際だという考えを示してから、一ヶ月あまりが経ちました。この間、3つの条件のようにわかってきたこともあります、大規模イベントの中止延期規模縮小等を要請するなど国民の皆様には大変なご苦労をお願いしてきました。ご協力に感謝申し上げます。中にはこの一ヶ月でいわばコロナ疲れ、自粛疲れとも呼ぶべきストレスを感じておられる方も多いかもかもしれません

ん。しかしオーバーシュートが発生した欧米各国では都市を封鎖したり強制的な外出禁止、生活必需品以外の店舗封鎖などの強硬な措置を講じざるを得なくなっております。現在、たいへんご不便をおかけしていますが、それは一層厳しいこのような措置を回避するためのものであることをまずご理解いただきたいと思っております。繰り返し申しますが日本は欧米とは異なって現状ではまだギリギリ持ちこたえています。まあしかしそれ故に少しでも気をゆるればいつ急拡大してもおかしくない、幸いオーバーシュートを回避できたとしても、それはまさに水際の状態がある程度の長期に渡って続くことを意味します。この戦いは長期戦を覚悟して頂く必要がある、そのことを率直に申し上げ、感染拡大の防止に引き続き、国民の皆様のご協力を賜りますよう、お願いいたします、政府としても一日も早く皆様の反を解消できるよう、有効な治療薬やワクチンの開発を世界の叡智を結集して加速してまいります。先般、テレビ電話でも実施された G7 サミットでも、G20 サミットでも、そのことを強く主張し、世界の首脳たちから賛同を得ました。我が国では 4 つの薬について既に観察研究としての投与を開始しています。このうち、新型インフルエンザの治療薬として承認を受け、副作用なども判明しているアビガンについてはこれまで数十礼で投与が行われています、ウィルスの増殖を防ぐ薬であり、既に症状の改善に効果が出ているとの報告もあります。アビガンには海外の多くの国から関心が寄せられており、今後、希望する国々と協力しながら臨床研究を拡大するとともに、薬の増産をスタートします。新型コロナウイルス感染症の治療薬として正式に承認するにあたって必要となる新プロセスも開始する考えです。エボラ出血熱の治療薬として開発されたレンデスビルについては日米が中心となった国際共同治験がスタートしています。そして 5 つ目の有力候補として肺炎の治療薬に承認されているフサンについて今後、観察研究として事前に同意を得た患者の皆さんへの投与をスタートする予定です、さらには現在、治療薬やワクチンなどの開発に向けて大学や民間企業でも様々な動きが出ています。これらを政府が力強く後押しすることによりあらゆる可能性を追求します。日本だけでなく、世界中を未曾有の不安と恐怖が覆う中で日本は持ち前のイノベーションの力で希望の火を灯す存在でありたいと願っています。これまでになく、厳しい状況に陥っている現下の経済情勢に対しても思い切った手を打ってまいります。昨日来年度予算が成立しました。これによって、医療や介護など社会保障の充実、高等教育の無償化など、予算を切れ目なく、新年度から執行することができます。加えてこのあと、政府対策本部を開催し、緊急経済対策の策定を指示いたします。リーマンショック以来の異例のことではありますが来年度予算の補正予算を編成し、できるだけ早期に国会に提出いたします。国税、地方税の減免、金融措置も含めあらゆる政策を総動員して、かつてない強大な政策パッケージを練り上げ、実行に移す考えです。昨日まで七回に渡り現場の声、地域声を直接伺ってまいりました。様々な活動の自粛などに伴って日本経済全体に渡って極めて、甚大な影響が生じています。来月のバス予約は前年比で 9 割減。航空業界もすでに年間の営業利益がすべて吹っ飛ぶくらいの減収となっています。宿泊や飲食といった業界でも売上が八割九割減った所も多い。音楽業界ではイベントが中止になり売上はゼロどころかマイナスだという話もありました。先行きが見通せない中で中小、小規模事業者の皆さんからはまさに死活問題である、との悲痛な声がある一方で、歯を食いしばってこの試練を耐え抜くよう頑張っていく、という決意も伺うことができました。政府として、こうした球場を徹底的に下支えし、地域の雇用、働く場所はしっかりと守り抜いて参ります。そしてこういうときだからこそ、人々の心を癒やす文化や芸術、スポーツの力が必要です。困難にあっても、文化の火は絶対に絶やしては参りません、ただどうしても感染の拡大防止が最優先になる現状ではまずこの難局を乗り切っていただくことに重点を置いた対策を進めます。中小、小規模事業者の皆さんには既に実質無利無担保、最大 5 年間元本返済据え置きという大胆な資金繰り支援策を講じてきたところですが、この無利子融資を民間金融機関でも受けられるようにいたします。さらに、融資だけではなく皆さんにこの困難を乗り越えていただくために新しい給付金制度を用意いたします。現下の厳しい現実を踏まえ、これまでになく規模で、前例のない中小小規模事業者支援を実施いたします。仕事が減るなどにより収入が減少し、

生活に困難を来す恐れのあるご家庭には返済免除も可能な小口資金支援、税や公共料金の支払の猶予などを既に勧めてきましたが、これに加え、思い切った生活のための給付を実施してまいります。政府をあげて様々な境遇の方の声に耳を澄まし、きめ細かな支援を行う考えです、そして感染の拡大が抑制され社会的な不安が払拭された段階では一気に日本経済を V 字回復させていく、全国津々浦々皆さんの笑顔を取り戻すため、旅行、運輸、外食、イベントなどについて短期集中で大胆な需要喚起策を講じるなど、力強い再生を支援する考えです。世界が強調し、強大な経済財政政策を実行する、これが先般の G20 サミットにおける合意です。世界の協調をリードする我が国としてはリーマンショック時の経済対策を上回るかつてない規模の対策を取りまとめてまいります。国民の皆さんがこの夏の開催に胸を踊らせてきた、東京 2020 オリンピック、パラリンピックについてはやむを得ず延期し、遅くとも来年夏までに開催することとします。この夏に、照準を合わせて頑張ってきたアスリートの皆さんには大変申し訳無い気持ちでいっぱいではありますが、世界の現状を踏まえご理解をいただきたいと考えています。先週日本にやってきた聖火は人類の希望の象徴として我が国でその火を灯し続け、来たるべき日に、力強く送り出すことにしたいと思えます。この聖火こそ今まさに私達が直面している長く暗いトンネルの出口へと導く希望の灯火であります。人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証として国民の皆さんとともに来年のオリンピック・パラリンピックを必ずや成功させていきたい、そう考えております。私からは以上であります。」

司会「皆さんからご質問をいただきたいと思えます。質問される方挙手をお願いします。私が指名いたしますので、指名を受けられた方は所属と名前を明らかにされた上でご質問をお願いいたします。本日大変多くの皆様にご参加いただきましたありがとうございます。現下の状況をご賢察いただきましてご質問希望の意思表示は声ではなく挙手をお願いします。それでははじめに幹事社から参ります、どうぞ。」

"共同通信記者「幹事社の共同通信の吉植です。昨日一般会計総額が 102 兆 6580 億円と過去最大の 2020 年度予算が成立いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大が続き、国内経済にも深刻な影響が懸念される中、追加の経済対策や補正予算を求める声が与党などで強まっています。先程総理、できるだけ早く、早期にとおっしゃった補正予算ですけれどもこれを 4 月中に編成して国会に提出するお考えはありますでしょうか。また、リーマン・ショック後の 2009 年に決定した国の財政支出 15 兆円、事業規模 56 兆円の経済対策を上回る施策を取るといのでよいのでしょうか、収入が減った世帯への現金給付をおこなうのかなど、その規模感や具体策、狙いについてお聞かせください。」

安倍総理「ええ、まず昨日、来年度予算が成立をしました。まずはですね、その中の 26 兆円の事業規模のですね、経済対策を一日も早く執行していきたいと考えています。そして政治を、景気をですね、下支えしていきます、その上で日本経済全体に渡ってですね、極めて甚大な影響が生じていますが、そのマグニチュードに見合っただけの強大な政策をですね、財政金融税制を総動員して実行していく考えであります。緊急経済対策のですね、策定とその実行のための補正予算の編成をこのあと、この会見のあとですね、このあとですね、支持をいたします。そして今後 10 日程度のうちに取りまとめ、速やかに国会に提出したいと考えています。今まさにスピードが求められていると思えます、そういう観点からですね、相当程度大変ではありますが 10 日程度のうちに取りまとめて、そして速やかに国会に提出をしたいと考えています。ただいま、個別のヒアリングをおこなって参りましたが厳しい状況に置かれている方々本当にたくさんおられると思えます。まさに日々の資金繰り、当面のキャッシュがないという方々もたくさんおられるわけですので、そうした中小小規模事業者の皆さん、フリーランスや個人事業主の方々そしてまさに日々の生活、大変に不安に感じておられる方々がたくさんおられますので、冒頭申し上げましたようにそうした皆さんのですね事業を継続していただくために、あるいは生活をしっかりと維持をしていただくために現金給付を行いたいと考えております、そしてその上においてですね、感染の拡大が抑制されただな気において旅行や運輸、外食やイベントなど大変な影響を受けている方々に対して短期

集中で大胆な事業換気策を講じていきたい、そしてまさに全国痛浦々また笑顔が戻ってくるように V 字回復を目指していきたいと考えています、そしてリーマンショックの規模を上回るかどうか、これはリーマンショックの規模を上回るかつてない規模の対策を取りたいと考えています。」

司会「はいあ、では幹事からもう一社どうぞ。」

東京新聞中日新聞記者「はい、東京新聞中日新聞の後藤です。新型コロナウイルスの感染拡大についてお伺いします。東京都では本日一日として過去最多の 60 人以上の感染者が確認され外出自粛要請で経済にも大きな影響が広がっています、総理は今、現状についてぎりぎり持ちこたえているとの認識を示しました。政府として緊急事態宣言を出すような状況に近づいているという認識でしょうか、また現時点で宣言を行う状況にない場合、今後、感染者数や経済の影響など具体的にどのような状況になれば宣言を行う要件を満たすことになるのでしょうか、またこの厳しい状況を乗り切るには国民の理解と協力が欠かせませんが、森友学園の問題で命を絶った財務省近畿財務局職員の手記が公表され総理も国会で国民の信頼を揺るがす事態となって、大きな責任を痛感していると述べられました。国民の信頼を回復するために遺族が求める第三者委員会を設置するなどして説明責任を尽くして調査を、再調査をしていくことについて必要性はないのでしょうか。」

安倍総理「まあ、今併せて 2 問、いただきました。まあ最初の質問であります、国内ではですね、新規の感染者数が都市部を中心にまあ増加をし、そして感染源が不明な感染者も増えてきています。また海外からの輸入が疑われる事例も多数報告されている、と承知をしております、東京都では 3 月 25 日にそれまで過去最多の 40 例を超える感染者が確認され、さらに増加をしていると聞いています。この状況を受け、今週、小池知事が重大局面にあるとしてですね、近接の四県知事とも夜間休日の外出自粛など協力を呼びかけていますが、このような現状の状況はですね、緊急事態宣言との関係で言うそうですね、まあぎりぎり持ちこたえている状況である、と認識をしています。まあ今日、今の段階においては緊急事態宣言ではありませんが、この状況というのはまさにぎりぎり持ちこたえているということでありまして、この瀬戸際の状況が続いていると認識をしております。こういう強い危機感のもとに、まあ一昨日ですね、改正特措法に基づいて政府対策本部の設置を閣議決定したところでありまして、これによってすべての都道府県にですね、対策本部が設定をされたわけでありまして、まあ自治体ともこれまで以上に緊密に連携をしながら最悪の事態も想定しながら、感染拡大の防止に全力を尽くしていきたいと思っていますし、国民の皆様にも一層のご協力をお願いしたいと思います。で、そして森友問題についてであります、非常に真面目に日々職務をこなしておられた方がですね、自らの命を絶った、大変痛ましい出来事であり、改めてご冥福をお祈りしたいと思いますし、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げたいと思います、またそうした事態となったことについてですね行政府の長として責任を痛感しておりますし申し訳なく思っております。改ざんはそもそもあってはならない問題であり、再発防止を徹底していく必要があるのだらうと思います。そしてこの本件についてはですね国会でも既に説明をさせていただいておりますが、財務省において麻生大臣のもとで事実をたてていき調査をし、また、捜査当局による操作も行われました。まあこの問題に関わらず、いずれにせよ皆様に対しましては説明責任を果たしていかなければならないと思っております。まあこの問題についても厳しいご指摘があることはですね、真摯に受け止めながら、二度とこうしたことがないように全力を尽くして行きたいと考えてます。」

司会「はい、それではこれから幹事社以外の方からのご質問をいただきますので挙手をお願いいたします、あの、前列の方の声はですね、設置のマイクが拾います、後者の硬さした場合はですね、大きな声を皆さんが出さなくていいように、係の者からワイヤレスマイクをお渡ししますのでご協力をお願いします。」

記者「経済対策についてお伺いします。足元では特に観光や外食と行った業種で従業員の雇い止めが懸念されていると思います、新型コロナウイルスにより大切な雇用が失われないようにするために企業への雇用調整助成金

について助成率の拡大や正規社員だけではなく非正規社員などにも対象を広げる思い切った対策を取る考えありますでしょうか、もう一点、先程言及がありました現金給付ですけれども給付の規模ですとか、一律に給付を考えているのか、対象についてお考えありましたらお伺いします。」

安倍総理「はい、ええ、まず、安倍政権は経済においてはいちばん大切な指針は雇用を守ること、雇用を生み出すことに最も力を入れてきたところであります、この7年間で400万人以上の雇用を創出をしてきました、しかしこういう厳しい時に何をやらなければ行けないのか、それは雇用を守ることなんだろう、と思います。まあリーマン・ショックのときの経験をもとにですね、まずはやはり一番苦しいのは中小企業、小規模事業者の皆さんなんだろうと、こういう皆さんに雇用を継続していただかなければなりません、そこで4月からはですね雇用調整助成金の助成率についてですね、解雇等をとわず、雇用を維持する企業に対し、正規非正規に関わらず中小企業は90%、大企業でも75%に引き上げていきます。引き続き日本国民にとって最も重要な雇用の維持に全力を上げてまいりたいと思います。で……」

中継が途中で遮られ、スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

膳場貴子「それではTBS遊佐政治部長と伝えてまいります。遊佐さん。会見の内容、まあ緊急経済対策ですとか緊急事態宣言などについても言及していましたが、まとめてください。」

遊佐勝美(TBS政治部長)「そうですね、まず爆発的感染が発生したとしても、まあ察知することができない、という形で警戒感を呼びかけた上ですね。薬、治療薬ですねアビガンなどの薬4つの薬について観察、研究を開始しているという形で強調していました。更にですね、その来年度予算が成立したことを受けまして緊急経済対策を策定を指示しました。でその緊急経済対策を含んだ補正予算案をできるだけ速やかに国会に提出するという形ですね。で、ポイントになっております、その緊急事態宣言。この緊急事態宣言が発せられると非常にまあ外出自粛ですとか、非常に強い外出自粛の要請等が行えるんですけども、その非常事態宣言、緊急事態宣言については今のところそういう段階ではないとしたうえで、ぎりぎり持ちこたえているんだと、瀬戸際なんだということを強調しましたね。」

日下部正樹「そうですね、あの、そのギリギリ持ちこたえているという中でですね、総理これ初めてだと思えますけれども国民に向けて長期戦を覚悟してほしい、とこういった言及がありましたね。」

遊佐勝美「そうですね、長期戦覚悟という形で今のところやはり事態をなかなか抑えることが現在のところ難しいということを説明した上でただし来年の夏にはオリンピックを開催するということですから、その工程表というのをですね、もう少し具体的に示してほしいところがありますよね。」

日下部正樹「ちょっと矛盾するような幹事ですよ。」

遊佐勝美「そうなんですよね、来年夏には必ずオリンピックは開催するわけなので、それと長期戦というのは矛盾する表現ですよ。」

膳場貴子「ええ、なるべく速やかに補正予算を提出するというのと緊急事態宣言には今は波及する状況ではない、そして長期戦を覚悟するというようなことを今回券で話したということですね。」

日下部正樹「あと、総理は治療薬についてかなり言及していましたね。」

遊佐勝美「そうですね、はい。4つの薬そのアビガン、ですとか薬については観察研究を既に開始をしていると、で薬の増産もスタートさせるというふうにしていますよね。」

日下部正樹「あの日本はイノベーションの力でね、世界のこの希望の火を灯す存在でありたいという言及もありました。」

遊佐勝美「そうですね、今後に向けてやっぱりあの東京オリンピック、来年やるわけですから、できるだけ早期に抑え込みたいということですよ。」

また CM および他のトピックをはさんだ後に膳場キャスターによって「東京などで新型コロナウイルスの感染が拡大する中、安倍総理は現在行われている記者会見の中で、緊急事態宣言について今の段階では緊急事態ではないが瀬戸際の状況という認識を示しました。」とのコメントが伝えるとともに、会見での安倍総理の「今の段階においてはですね、緊急事態宣言ではありませんが、この状況というのはまさにぎりぎり持ちこたえているということでありまして。この瀬戸際の状況が続いている、と認識をしております。」という発言が取り上げられ、更に膳場キャスターが「安倍総理はこのように述べるとともに感染がいつ急拡大してもおかしくないとして引き続き国民への協力を呼びかけました。政府はこのあと新型コロナウイルスの改正特措法に基づいて設置された政府対策本部を開いて政府の全体的な方針を定めた基本的対処方針を決定する見通しです、一方感染被害による経済情勢の悪化を受け、安倍総理はこのあと、緊急経済対策の策定と補正予算案の編成を支持すると述べました。また現金給付を行いたいとしてリーマン・ショック時を上回るかつてない規模の対策を検討する考えを示しました。」とスタジオで補足していた。

この特集に当てられた時間は 1736 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】公文書改ざんで自殺～職員の子は

赤木さんの妻が夫の遺書として公表した手記では「全て佐川理財局長の指示」と明確に告発されている。他方で、その手記を夫の遺書として公表した妻の口から「財務省の潔白を証明するためにも」という言葉が出てくるということに違和感を覚えた。赤木さんが命をかけて伝えたかったことは財務省の潔白ではなく、むしろ財務省による組織的改ざんではなかったのだろうか。それがいつの間にか、財務省の潔白などということにすり替わっている、この過程には何があったのだろうか。非常に気になることである。また、赤木さんの妻も自分で言っていて夫の遺書として公表している内容と自分の発言との矛盾を疑問に感じなかったのだろうか。

金平キャスターは「ええ、今、たった今出てきたばかりなんですけど、まだ会見は続いています、幹事社の方からですね森友事件に絡んだ自殺者の文書問題について質問が出たんですけども、たいへん痛ましく、ご遺族の皆さんにお見舞い申し上げる、行政府の長として改ざんはあってはならない、というようなこれまでの国会答弁で言っていたようなことを繰り返して財務省も麻生大臣のもとで捜査当局による調査も終わっているということで、まあ要するに再調査はしないというこれまでの姿勢を崩していないということだったんですけども、まあ私はこういうことをすぐに出てきていうのはですね、テレビをご覧の方々の中にはそのコロナウイルス拡大の折にですね昔のことを蒸し返すようなことをするなというようなことを考えておられる方がいたとしたらですね、私はそれは大間違いだというふうに思いますね、こういうあのかつてないような経済対策をコロナ対策を打ち出す時に国のリーダーをですね、国民が信じられるかという、まあ信用と信頼の問題というのは非常に大事な問題だと思います、そういう意味からするとですね、再調査を行わないというような姿勢については信頼性との関係でどうなのかということを肝に命じるべきだと思います。」とコメントしていたが、そもそも財務省の問題が「国のリーダーを信じられるかどうか」という問題に意図的にすり替えているように感じた。

改ざんが財務省で行われたのであるから信用できるかどうかの対象は一義的には財務省であって、国のリーダーが誰だから財務省が信用できる組織で、誰だったら信用できない、というような話でもないのではなかろうか。

また、信用と信頼の問題も大事なのだろうが、他方で「信用できない」と言いながら減税や歳出削減や行政の縮小にも否定的だという国民の側にも問題があるのではないだろうか。結局、国民が行政に依存しているからこそ、たとえ国のリーダーが信じられないとしても、行政機関が信じられないとしても、結局そうした信用できないリーダーや行政機関に金や権限を与えざるを得ない、政策を期待せざるを得ないのではなかろうか。

シンプルに考えれば、信用できないような人には金も権限も与えない、その代わりに政策も求めないというのが一番であるはずだ。それができないのに、信用だ信頼だと言ったところで、その議論に一体何の意味があるのだろうか。まずは主権者である国民が信用できないリーダーや行政機関から金や権限を取り上げる、という選択肢もありうるということを示さなければ、何も変わらないのではなかろうか。